

UNIVERSITY EVALUATION NEWSLETTER

1 **TOP MESSAGE 1** 自主的な点検と改善・改革をめざして

2 **TOPIC 1** 2008年度卒業生アンケート調査結果

4 **TOPIC 2** 法政大学大学評価委員会が発足しました。

5 **TOP MESSAGE 2** 中期目標・年度目標の設定を終えて

6 **TOPIC 3** 第1回大学評価室セミナー報告
活動報告

TOP MESSAGE

1

自主的な点検と改善・改革をめざして

法政大学は、教育と研究の自主的な点検評価体制を作りました。そのための全学組織は二つあります。一つは、「自己点検委員会」です。これは各学部などの責任者から構成される組織です。わが大学の点検評価の方針について審議いたします。もうひとつは「評価委員会」です。これは、学内外の教員と職員から構成され、学部などの作成する報告書を評価いたします。この二つの委員会のもとで、各学部が点検活動を行い、自主的に改善と改革を実施することを想定しています。そのための方法は、中期短期の到達目標を設定することです。学部が到達目標とその達成指標を設定し、成果

を確認しながら次の施策を計画するものです。大学基準協会が、各大学に対して認証評価を受けるための自己点検ではなく、大学が自主的に点検評価とその組織作りを求めていることも、こうした制度設計の理由のひとつですが、やはり大学を構成する各組織が教育研究機関としての社会的責任を果たすべく設定したものです。すでに第一回の自己点検委員会と評価委員会を開催し、規程類、今年度の方針および年間スケジュールが承認されました。こうして新組織は、順調に立ち上がりましたが、それを十分機能させるべく、協力をお願いいたします。



大学評価室長 公文 溥

2008年度卒業生アンケート調査結果

前号で報告しましたが、全学部の卒業生を対象とした、卒業生アンケート調査結果の概要を紹介します。なお、調査結果は本学のホームページでも公表しています。

■調査の目的

自己点検・評価活動および教育の質向上に資する情報の収集。

■調査の方法

調査主体 総長室付大学評価室

調査対象 2008年度卒業生(学部通学課程のみ)

回答数4,957名(回収率80.8%)

調査時期 2009年3月24日～4月下旬

調査方法 調査票を用いた記名式による調査

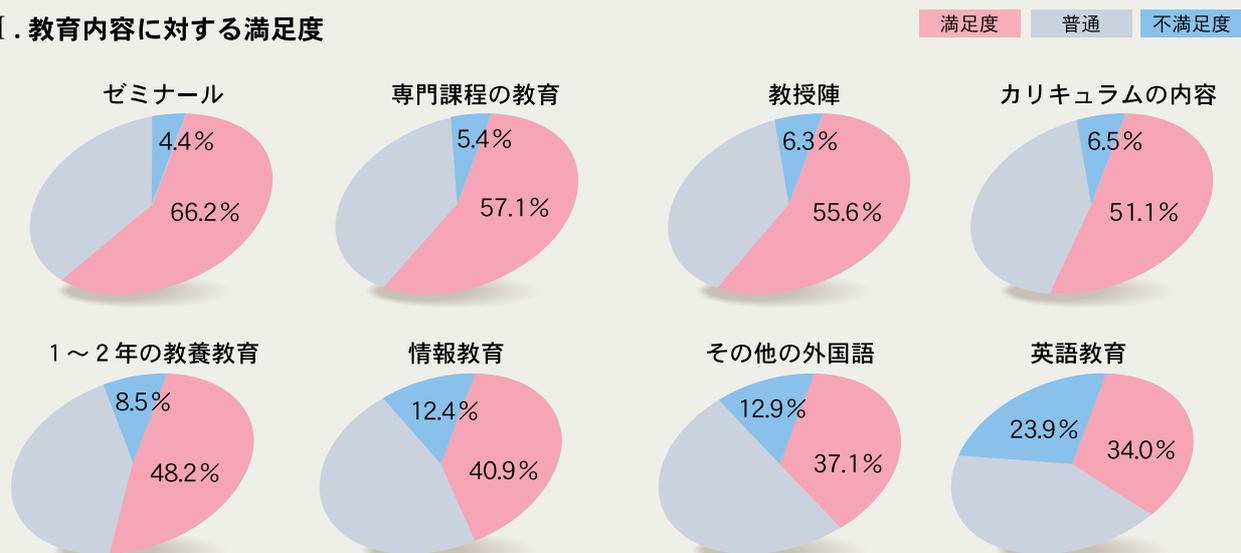
調査票は、学位授与式で配布し、学位記配布時に回収しました。

当日来られなかった学生には窓口で配布・回収しました。

■調査結果について(概況)

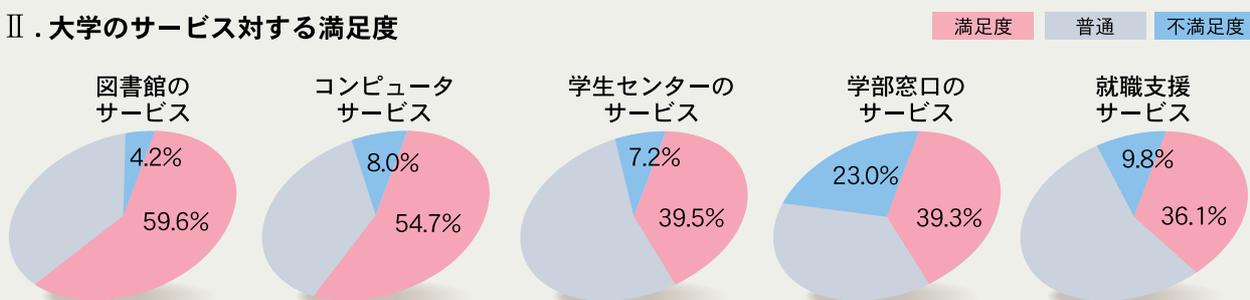
以下のI～IVは、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階で評価をしていただきました。また、「満足」と「やや満足」の合計を満足度、「やや不満」と「不満」の回答の合計を不満足度と表記します。

I. 教育内容に対する満足度



ゼミナールの満足度が非常に高いことが判かりました。一方、英語教育の満足度が相対的に低くなっています。

II. 大学のサービスに対する満足度



図書館のサービスに対する満足度が高く約6割となっています。

学部窓口のサービスは、満足の評価が4割程度あるものの、不満足度も高いことが判りました。なお、卒業生からの自由記述コメントでも「対応」「態度」等に関する不満が多く見受けられました。

なお、学生センターサービスと就職支援サービス(キャリアセンター)は、それぞれ回答不能と答えたものが、7.4%、9.5%あり、利用していない学生も目立ちました。

(3ページへ続く)

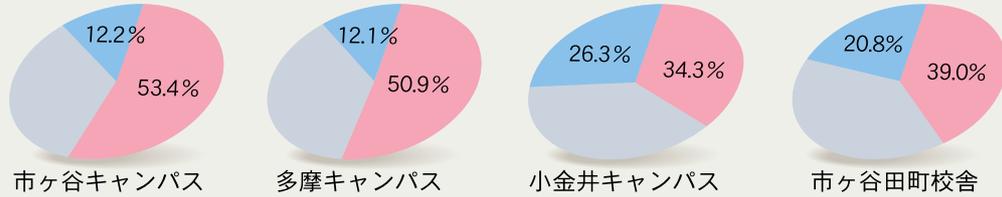


(2ページより続く)

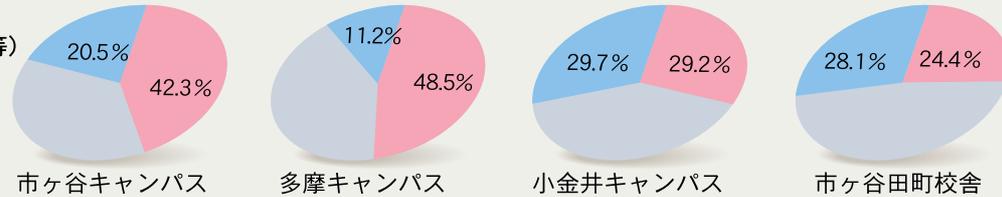
Ⅲ. 大学の施設・設備に対する満足度(キャンパス別の集計結果)

満足度 普通 不満足度

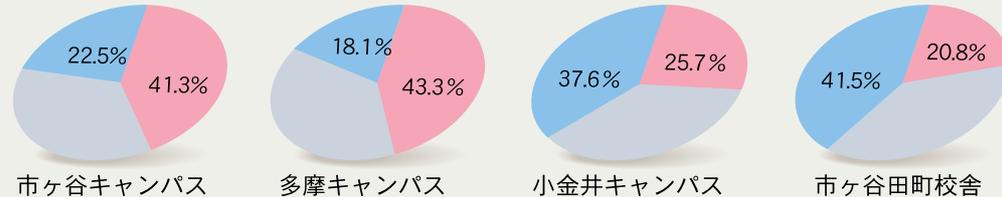
建物・教室



厚生施設 (学生ホール等)



食堂

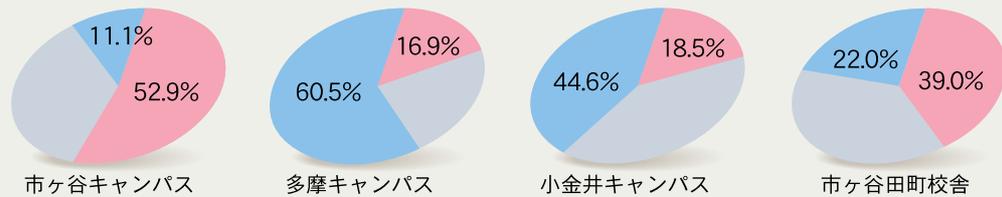


※市ヶ谷田町校舎は、工学部システムデザイン学科(現デザイン工学部)の学生が主に利用しています。

・小金井キャンパスについては、2007年3月より再開発工事中であるため、全ての項目において、満足度が低くなっています。
また、市ヶ谷キャンパスは、厚生施設と食堂の不満足度が若干高くなっています。

Ⅳ. 交通の便に関する満足度(キャンパス別の集計結果)

満足度 普通 不満足度

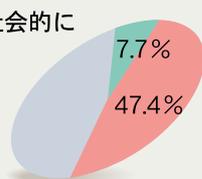


・多摩キャンパスと小金井キャンパスの満足度が低くなっています。

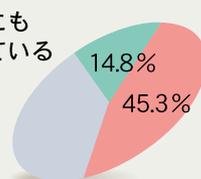
Ⅴ. 法政大学の社会的評価

肯定的 普通 否定的

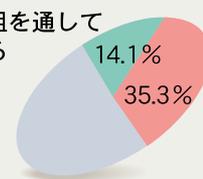
本学の卒業生は社会的に活躍している



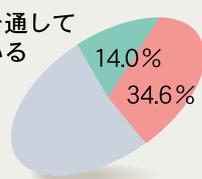
本学は社会的にも高く評価されている



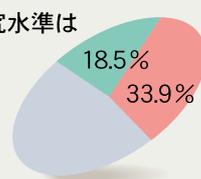
本学は環境への取組を通して社会に貢献している



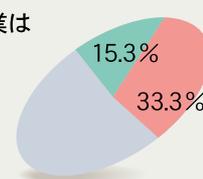
本学は教育研究を通して社会に貢献している



本学の教育研究水準は相対的に高い



本学の国際交流事業は活発である



・肯定的回答は、「卒業生の社会的活躍」や「大学全般の社会的評価」について高いものの、教育研究水準や国際交流の活発度などに関しては、約3割に留まっています。



TOPIC
2

法政大学大学評価委員会が発足しました。

本学では、自己点検・評価体制を実質化させるため、従前の実施体制を改め、法政大学大学評価委員会を設置し、発足させました。各学部等の自己点検報告書や改善策の点検・評価を行い、改革・改善に資する評価を行います。

委員長	公文溥	大学評価室長、社会学部教授	綿貫健治	城西国際大学国際人文学部 特任教授
副委員長	安孫子信	文学部教授	新井康廣	前日本私立学校振興・共済事 業団監事
委員	浜村彰	教育支援本部担当常務理事	清水敏	早稲田大学常任理事
	金子征史	法学部教授	小林敬治	大学共同利用機関法人人間 文化研究機構理事
	廣川みどり	経済学部教授	田中宗七	監査室長
	福田好朗	デザイン工学部教授		
	ピーター・エヴァンス	グローバル教養学部教授		
	渡辺嘉二郎	工学部教授	以上14名	
	岡崎昌之	現代福祉学部教授	任期	2009年6月1日(小林氏は6月17日)～2011年3月31日



評価の実務作業を行う「評価員」を以下の方々に委嘱しました(50音順)。

池田寛二	社会学部教授	長原豊	経済学部教授
岡田匡令	淑徳大学国際コミュニケー ション学部学部長	長谷部俊治	社会学部教授
片桐庸夫	群馬県立女子大学国際 コミュニケーション学部教授	馬場憲一	現代福祉学部教授
草深守人	デザイン工学部教授	福島一政	日本福祉大学事業顧問 (前常務理事)
小秋元段	文学部教授	堀端康善	工学部教授
菅富美枝	経済学部准教授	鞠子茂	社会学部教授
武田将明	文学部准教授	溝口徹夫	情報科学部教授
塚田茂	駒澤大学内部監査室室長	湯前祥二	経済学部教授
辻田星歩	理工学部教授	余田剛	法学部准教授
永井進	経済学部教授	以上20名	
		任期	2009年7月8日(余田氏は7月15日)～2010年3月31日

TOP MESSAGE 2

中期目標・年度目標の設定を終えて

中期目標・年度目標の設定を終えて、6名の学部長の皆さんに感想を述べていただきました。自己点検・評価活動では、各学部等の特性や状況を踏まえて進めていくことが求められます。

評価の評価

文学部長 中釜浩一

出来合いの物差を用いて何かを計るのではなく、物差自体を作ること求められたとき、誰でも最初困惑すると思います。自己点検・評価の苦労は「信頼できる物差づくり」の苦労だと思います。授業や学位の「品質保証」をするための「信頼できる物差」とは一体何で、物差の信頼性を計る物差は何なのか。こんな哲学的疑問を考えていたのでは話是一向に進まないの、ついつい出来合いの物差を使いたくなってしまいますが、「何々合格率」や「何々アンケート」だけで評価されたのでは、文学部としての特質が全く消えてしまう、という気持ちを強く感じている教員も多くいることも事実です。「評価に値する評価基準の設計」、おそらくこれが現在の一番の課題なのでしょう。いろいろ知恵を出し合って、文学部の特質を失わず、なおかつ信頼できる基準・物差を見つけ出せるかどうか。もうしばらく模索が続きます。

全員参加型の点検評価活動

経済学部長 佐藤良一

現状分析シートの作成、中期・年度目標の設定という課題を年度当初に果たさねばならず、立ち上げたばかりの執行部として慌ただしく取り組むことになってしまいました。大学全体の方針、各学部の検討状況も十分にわからないという手探り状態が続きました。自己点検・評価活動をシステム化する最初の年であったので手際よく対応できない面もありました。そこで自己点検・評価活動に直接携わる者だけでなく、教授会構成員全員が関心を寄せ、積極的に討議に参加するための体制を構築する必要性を痛感しました。目標の再考をつうじて経済学部の今後さらに伸ばしていける優れた点と対応を迫られている問題点を認識できたのは収穫でした。

目標の明確化と達成力が問われる

人間環境学部長 根崎 光男

本学部は、ここ数年、カリキュラムおよび入試の改革、社会人学生への対応に取り組んできており、この点についての方針や年次計画は比較的明確になっていました。実際に、その一部を実現させ、今後の進め方についてもほぼ合意が得られています。

しかし、今回の項目ごとの中期目標や年度目標の設定に合意がなされていたわけではなく、トータルな視点からの捉えなおしを余儀なくされました。学部目標の明確化は、教員や学生への周知だけでなく、社会への発信という点からも重要です。これらの作業を通じて、目標の設定とともに、これを着実に達成することなど、改めて自主的な教育・研究活動の点検の必要性を痛感した次第です。

自己点検評価の中期目標設定を終えて

現代福祉学部長 長山 恵一

今年度からはじまったPDCAサイクルを基本とする自己点検評価は、準備期間が短かったことと慣れていないことがあいまって学部執行部は相当苦労したというのが偽らざる実感です。しかし、現代福祉学部の場合はたまたま2010年度の学科再編に向けて1年以上前から教授会で議論が積み重ねられており、まさにそれが学部の中期目標や将来構想に他ならず、学科再編の議論をベースに自己点検評価をまとめることができました。実際に自己点検評価を書いて感じたのは、項目の中に学部単独だけでは目標設定が難しく、全学的な取り組みが必要な部分が少なくないということでした。

中期目標・年度目標の設定を終えて

情報科学部長 花泉 弘

つい先日認証評価を受けたばかりと思っていたら、もう次の認証評価を受けるための準備がはじまりました。今度はPDCAサイクルを確立するため組織的に対応するのが主眼とのことで、執行部を中心に知恵を絞りました。幸いにも、教育GPへの申請や来年度からの大規模なカリキュラム改革に取り組んでいたこともあって、思ったよりもスムーズにまとめることができました。もちろん実行できなくては仕方ありませんので、執行部を中心に目標達成に向けて全力で取り組んでいくつもりです。目標設定に当たっては、学生の受講態度や生活面などを注意して観察しましたが、年々学業面より生活面での指導が必要になってきているような印象を受けました。

数値目標雑感

理工学部長 八名和夫

体重(kg)を身長(m)の自乗で割った値をBMIと称し、肥満の指標となるそうである。BMIが25以上になると肥満と分類される。肥満になると成人病罹患リスクが高まる。体重と身長の数値だけから成人病罹患リスクを正確に評価できるはずはないことは百も承知だが、あなたのBMIは23.9で“正常”ですと言われると何となく安心できて良い気分になる。今後の自己点検では数値化できる目標を定め“客観的に”目標が達成されたかどうかを評価するのだという。理工学部で議論した数値指標にはGPA、GPCA、プレースメントテスト、TOEFL等の試験結果、授業評価に盛り込まれた各種指標、教育支援システム利用率、外部資金導入件数、専任教員数対学生数比などがある。学生の学力、満足度、学部のFD、研究活動などをこれらの指標を組み合わせて評価してゆくことになるが、これらの指標がどこまで実態を反映したものか、常に心しなければならぬと感じている。



TOPIC 3

第1回大学評価室セミナー報告

第1回大学評価室セミナー「内部質保証システムの構築の必要性—大学基準協会の大学評価の改革方向—財団法人大学基準協会大学評価・研究部部長 工藤潤氏」のサマリーを掲載します。

(1) 大学評価が求められる背景

大学の多様化・自由化が進展する一方、大学の質の不揃いが見られ、学位の信頼性が低下していることから、設置基準の厳格化を含め、質の標準化を求める動きが強まっている。

(2) 現代の大学評価の問題点

自己点検・評価の目的が明確でなく受け身である。報告書も執筆者の印象で記述される例が多く客観的でない。また、問題点に対する具体的方策を示していないなど、形骸化している。

(3) 自己点検・評価を実質化させるために

自己点検・評価を実施する組織を整備する必要がある。また、到達目標を明確化すること、結果を改善システムに組み込む

こと、目標の達成状況を判断するための客観的データを整備することが重要である。

(4) 英国高等教育の内部質保証システム

英国の各大学には、質保証を掌るアカデミック・オフィスがある。学外試験委員制度により大学間の学位の同等性を保証するとともに、カリキュラムについて定期的にレビューする制度がある。

(5) 内部質保証システムを構築するために

今後の大学評価では、各大学のPDCAサイクルが有効に機能しているか、内部質保証体制に着目した評価を重視する。

(6) 結び

質に対する学内構成員の意識を高め、クオリティ・カルチャーの形成を行うことが重要である。

本講演の講演録(全文)を配布しております。ご希望の方は、大学評価室までご連絡願います。



活動報告

第2回大学評価室セミナーを開催しました。

4月30日、関西学院大学評価分析室課長の森田光男氏を迎えて、「関西学院大学における自己点検評価実施体制と今後の展開について」と題するセミナーを開催しました。関西学院大学は自己点検・評価の先進的な大学として知られております。セミナーには、学部長・研究科長をはじめ、約50名の参加をいただきました。参加者からは、自己点検評価に関わる各単位、部局間の関係について理解が深まった、データ収集システムの構築が重要だと思ふ等の意見が寄せられました。



ご講演を頂いた関西学院大学 森田光男評価分析室長

新入生アンケートを実施しました。

自己点検・評価活動に資する情報の収集を目的として、卒業生アンケートに引き続き、6月中旬より、新入生(学部・大学院)アンケートを実施しました。現時点での満足度や法政大学に対するイメージなどを調査しています。結果については、次号で報告する予定です。

法政大学

総長室付大学評価室

〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
tel.03-3264-9903
fax.03-3264-4077
E-mail:hyoka@hosei.ac.jp



<http://www.hosei.ac.jp/hyoka>



再生紙使用
2009.7/2000